

## 東海道静岡以東:08清水町伏見—三島本町—笹原新田

### 三島宿 沼津宿から1里半 名物 三島暦

本陣2、脇本陣3、問屋1、旅籠74。町並み東西10町。古くから三島大社の門前町として栄え、街道が箱根越になると宿場町として、また下田街道、佐野街道(甲州道)の分岐点として賑わった。幕府の直轄地として代官所も置かれた。(後陣屋となるが)富士山の伏流水の湧水があちこちから出て「水の都」として知られ、歌や、小説にも登場してきた。葦山代官江川太郎左衛門が農兵の訓練に用いたという「農兵節」はよく知られている。宿の中心は加屋町から大社町辺りまで。



樋口本陣跡(茶店)



世古本陣跡碑

### 伊豆国分寺跡

現在の国分寺跡に伊豆国分寺跡碑がある。昭和31年の調査で東西80間、南北100間の東大寺方式の伽藍があったことが確認された。寺の裏に碑が建つ。この寺は元蓮行寺といひ、三島代官を2、4代勤めた井出志摩守正次が慶長15年(1610)建立。一族の墓、供養等がある。



### 楽寿園 (国天然記念物及び名勝)

明治維新のとき活躍された小松宮彰仁親王が明治23年に造った別荘。その後、緒明家が所有。昭和27年より市の公園になる。富士山の噴火の際流れた溶岩の上に自生した樹木と別荘を造ったとき植えた樹木合わせ160種以上。野鳥が30種以上が観測される自然豊かな公園。広さ68000m<sup>2</sup>。園内には高床式数奇屋造りの楽寿館湧水池など。



こわめし坂の由来  
箱根の西坂でもっとも険しい坂  
こわめしを食べて力をつけてからでない  
坂を上れないとか、背中に背負った米が汗と熱でこわめしになるとか

### 三ツ谷新田

元和年間(1615-24)頃、この辺り3軒の茶屋あったという。その後、「元茶屋」「三つ屋」と呼ばれていた。新田開発の機に街道奉行大久保長安が「三ツ谷新田」と名づけたという。



### 松雲寺(日蓮宗)

江戸時代、諸大名の東海道往來の時の休息所となっていた。幕末14代將軍家茂公、15代將軍慶喜公のときは寺本陣となった。明治元年、11年には明治天皇の御休息所となるなど由緒ある寺。



### 三島大社祭神 大山祇神、事代主命

創建時期不明、古くよりこの地に鎮座し三島大明神(2祭神の総称)として伊豆の国魂神、国土開発の神として信仰されてきた。境内には嘉永7年(1854)の東海大地震で倒壊した社殿再興した矢田部式部盛治の像、頼朝の腰掛石、樹齡1200年といわれる金木犀(国天然)、名木楠などがある。名物 三島暦は当社より一般に頒布された。永暦元年(1160)伊豆に流されていた源頼朝は崇敬厚く、雌伏20年、治承4年(1180)8月17日御例祭の夜山木判官平兼隆を討ち旗挙げに成功する。以後武将の信仰盛んになる。



街道通れない



### 千貫樋

伊豆と駿河の国境の境川架けられている樋 長さ42.7m、幅1.9m、深さ45cm、高さ4.2m 天文23年(1555)今川、武田、北条の和睦が成立したとき北条氏康から今川氏真に聲引出物として小浜池から長堤を築き、その水を駿河に疎通させたというのが有力な説。樋ははじめ木製であったが大正12年の関東崩落したのでコンクリート製に架け替えられた。架設は銭千貫に値するとか、用水が石高千貫の田畑を潤したとか、建設に銭千貫費やしたとかが名前の由来とか。

### [弥次・喜多]

笹原新田を過ぎた辺りで風呂敷包みとやなぎごりをかけた旅人と同行。市ノ山新田で  
"足利のぶしやうの建し名にめでて七面堂といふべかりける"  
宿で酒の肴にと子供からすっぽんを買う。三島の宿で途中一緒になった旅人と同宿。遊女と寝ているとすっぽんが布団の中、指をかまれて騒いでいる間に旅人、金を盗んでドロン。[弥次・喜多]さん文なしになる。  
"よねたちとねたる側にはすっぽんもはづかしいやらゆびをくはへた"  
"すっぽんにくはへられたるくるしさにこちや石亀のじだんだをふむ"  
無一文なって宿を出て  
"ことわざの枯木に花はさきもせで目をこすらすごまの灰かな"  
"うき沈る世は次第ふどう尊いのれるかひもなき護摩の灰"